

論文要旨

【論題】 リトミックにおける身体表現法に関する研究 —20世紀前後の身体表現教育との比較を中心に—

佐々木由喜子

1. 研究目的

作曲家で音楽教育家のエミール・ジャック=ダルクローズ(Dalcroze, Emile Jaques 1865-1950)の創案した、リトミックにおける身体表現法〈プラスチック・アニメ(plastique animée)〉の概念を明らかにする。プラスチック・アニメは、身体造形や身体造型などと訳され、J=ダルクローズが命名した、音楽の動きと身体の動きを一致させるというアイデアである。音楽の持つ内的感情を身体表現として翻訳するという考え方であり、後のモダン・ダンスの誕生と進展、さらに身体表現教育に大きな影響を与えた。

本研究では、リトミック創案の背景にある社会的動向、音楽教育及び身体表現芸術の抱えていた問題を明らかにしながら、J=ダルクローズの革新的なアイデアの成立と、変容の過程を明らかにする。また、20世紀前後の身体表現芸術との比較により、相互の関連性や独自性を究明しながら、その理念を明らかにすると共に、理論と実践の今日的な意義を検討する。

2. 研究の意義

音の動きと身体の動きを一致させるというプラスチック・アニメは、J=ダルクローズが、身体表現芸術として重要な位置を占めていた古典バレエへの強い疑問や、音楽教育が抱えていた潜在的な問題に対応するものとして創案した概念である。

本研究では、プラスチック・アニメの概念の成立と変容を確認し、著作『プラスチック・アニメの練習』の内容分析から、J=ダルクローズの理想とする練習内容を明らかにする。更に、J=ダルクローズの定義した「音楽とプラスチック・アニメの共通要素」を指針に、古典バレエ、及び20世紀前後の複数の身体表現芸術の理論や教育思想を、音楽と身体の動きの視点から比較検討し、同異を検証することで、相互の関連性及び独自性を明らかにすることができる。同時に、当時の身体表現教育が目指していた目的と内容の傾向を明らかにすることができる。

3. 研究の独自性

これまで、J=ダルクローズのプラスティック・アニメに関わる実践的な研究は散見できるが、古典バレエ及び20世紀前後を代表する身体表現教育とプラスティック・アニメを対比させ検討した研究は見られない。音楽と身体の動きの視点から比較検討し、同異を確認することによって、プラスティック・アニメの独自性、及び、20世紀前後の身体表現法に関する新しい知見を導き出すことができる。

4. 研究方法

研究方法としては、J=ダルクローズ、古典バレエのワガノワ・メソッド、フランソワ・デルサルト、ルドルフ・ラバン、イサドラ・ダンカンの各主要文献及び準拠する文献、先行研究、視聴覚資料の分析を中心とする。

5. 研究内容の概要

第1章 リトミックにおける身体表現法〈プラスティック・アニメ〉の研究

—概念の成立の過程と変遷を中心に—

第1章においては、リトミックにおける身体表現法〈プラスティック・アニメ〉の概念の内容、及びその成立の過程と変容を、J=ダルクローズの主要な著作から検討した。

J=ダルクローズの活動を、概念の胎動期、ジュネーヴ音楽院教授時代、ヘレラウ・ダルクローズ学院時代、概念の応用期の4つの時期に分けて、教育活動における実践的な試みと、教育的思想や影響を受けた主要な人物との交流による影響を考察した。プラスティック・アニメの内容の変遷を、年代を追って概観する。また、著作『プラスティック・アニメの練習』(1917)の内容の分析を通して、その具体的な練習方法について考察した。音楽と身体の動きを一致させるという〈プラスティック・アニメ〉の概念は、音楽の聴取から、分析、身体表現と続く一連の流れの中で、神経組織と筋肉組織のより良い連携を構築し、音楽と学習者の内面世界を結びつけることで、心身の調和のとれた人間教育としての目的を持っていたことが確認できた。

第2章 古典バレエの身体表現法とプラスティック・アニメの比較研究

—音楽と身体の動きの関係をを中心に—

第2章においては、古典バレエの教育システムとして同時代に発表され、現在でも一定

の評価を確立しているワガノワ・メソードとの比較検討を行い、その身体表現法との同異を考察する。J=ダルクローズは、古典バレエの身体表現法に対して、音楽がただ伴奏としての役割しか果たしていないことに大きな疑問を持っていた。

J=ダルクローズが定義している「音楽とプラスチック・アニメの共通要素」を指針として、古典バレエの身体表現法との具体的な同異を明らかにした。J=ダルクローズが、音楽とバレエの関係について「音楽と現代のバレエの共通要素は、唯一〈拍子〉であり、付け加えて、近似的には〈リズム〉である」と言述した内容について検討した。古典バレエの身体表現では、あくまでも伝統的な動きの型が重視され、音楽の持つ豊かな感情や要素の発現としての身体表現は確認ではなかった。

第3章 プラスティック・アニメに見られるデルサルト身体表現理論の影響に関する研究

第3章では、19世紀の舞台芸術の分野において「身体表現理論」を開発したとされる、フランソワ・デルサルト (Delsarte, Francois 1811-1871) を取り上げる。デルサルトの「身体表現理論」は、一つひとつの身振りに意味や感情を投入し、より豊かな身体の表現を伴うことの重要性を説いたものである。デルサルトの理論は、新しい身体運動への道筋を切り開いたものであり、モダン・ダンスへの影響も確認できる。同理論のリトミックへの影響はいかなるものだったのか、また、具体的にどのような同異が見られるのか、デルサルト理論の内容を明らかにし検討した。心で感受したことを身体全身で表現することを重視した点においては明らかな影響が認められ、空間の認識、教育目的等、複数の要素においても影響を確認することができた。

第4章 ラバンの舞踊教育とプラスチック・アニメの比較研究

—音楽と身体の動きの関係を中心に—

第4章では、J=ダルクローズと同時代に活躍した舞踊家ルドルフ・ラバン (Laban, Rudolf von, 1879-1958) の教育思想や舞踊教育における手法を取り上げ比較検討した。ラバンは〈モダン・ダンスの父〉と呼ばれ、モダン・ダンスの誕生期における主要な人物である。ラバンはリトミックを研究し、実際に舞踊教育の導入として教育を行ったとされている。

J=ダルクローズが定義している「音楽とプラスチック・アニメの共通要素」を指針に、教育思想や手法を確認し同異を検討した。ラバンの教育思想については、舞踊教育で

ありながら、生活への応用や社会性の育成など、人間教育としての明らかな共通点が確認された。また「空間」の捉え方など、複数の共通点が明らかになった。しかし、音楽の捉え方については、根本的な相違が確認できた。

第5章 ダンカンの舞踊教育とプラスチック・アニメの比較研究

—音楽と身体の動きの関係を中心に—

第5章では、J=ダルクローズと同時代に活躍したもう一人の舞踊家、イサドラ・ダンカン (Duncan, Isadora, 1878-1927) の教育思想や舞踊教育における手法を取り上げ比較検討した。ダンカンは〈モダン・ダンスの母〉と呼ばれ、当時一世を風靡したダンサーである。ダンカンは、前述のラバンと同じくモダン・ダンスの誕生期の主要な人物であるだけでなく、古典バレエはもとより美術などの新進の芸術家に大きな影響を与えたとされている。

J=ダルクローズが定義している「音楽とプラスチック・アニメの共通要素」を指針に検討した。J=ダルクローズと同様に、音楽を聴取し身体表現するダンカンの手法だが、音楽と動きに対する考え方には、J=ダルクローズとの根本的な相違が確認できた。ダンカンにとって音楽は1つの「きっかけ」にしかすぎず、「魂の靈感」と述べられる、あくまでも個人的な感覚に基づいたものであることが確認できた。しかし、教育思想については、舞踊教育を通して豊かな人間性を培うという人間教育としての共通した目的が確認できた。

結論 リトミックにおける身体表現法〈プラスチック・アニメ〉の概念

—20世紀前後の身体表現教育との比較検討の視点から—

第5章までの検討により見出された考察により、結論では、J=ダルクローズの身体表現法〈プラスチック・アニメ〉の手法の特性と、20世紀前後の身体表現教育との同異について総括した。

J=ダルクローズの手法の特性は、あくまでも音楽の聴取と理解に軸足をおき、音楽の情感と学習者の内面世界を結びつけるという点であり、他の教育との根本的な相違を確認した。また、身体表現を通じた心身の調和を目指すという点は、時代の要請でもあった「新しい人間」の教育として期待された内容であり、20世紀前後の身体表現教育に見られる教育思想の共通点として確認できた。また、複数の共通要素が、今回取り上げた20世紀前後の身体表現教育に見出せた。

J=ダルクローズは、古典バレエの形態に対する疑問を持ち、先行するデルサルト身体表現理論を吸収し、社会の要請に答えるべき新しい身体表現教育の体系を創り出した。また、その理論と体系化された教育法は、ラバンを代表とする後世にしっかりと継承された。以上のことから、J=ダルクローズのプラスチック・アニメは、20世紀前後の身体表現教育の展開において、極めて重要な影響力を持った教育であったと結論づけられる。

Abstract

**【Title】 Research on Technique of Body Expression in Eurhythmics:
A Comparison with Body Expression Education near the Turn of the
20th Century**

Yukiko Sasaki

1. Aim of Research

This research was undertaken to clarify the technique of body expression known as *plastique animée* in Eurhythmics music education, created by composer and music educator Emile Jaques-Dalcroze (1865–1950). *Plastique animée* translates as body shaping or body modelling, and it is the name that Dalcroze gave to the action of matching body movement to music. It is the idea of translating the internal feelings inspired by music into body expression. This idea later led to the birth of modern dance, and it also had a large influence on body expression education.

This research also clarifies the surrounding issues of social movements informed by Eurhythmics for music education and body expression art; at the same time, it clarifies the formation of Dalcroze's innovative ideas and the process of their transformation. By comparing Eurhythmics with body expression art near the turn of the 20th century and investigating the interrelationships and individuality of each, this research examines and clarifies relevant contemporary theory and practice.

2. Significance of Research

Plastique animée, or matching the movement of the body to music, was proposed by Dalcroze as a response to his strong doubts about classical ballet, which held an important position as a body expression art form. He also proposed it as a response to latent issues surrounding music education.

This research confirms the formation and transformation of the *plastique animée* concept; based on an analysis of the content of the book *Exercices de Plastique Animée*

(1917), it clarifies the content of exercise that was Dalcroze's ideal. Moreover, by using "common elements shared by music and *plastique animée*" defined by Dalcroze as indicators, it was possible to comparatively examine classical ballet and the multiple ideas and educational thinking regarding movement of the body and music around the turn of the 20th century. Further, by identifying similarities and differences, it was possible to clarify the interrelationships and the individuality of each, as well as trends in objectives and contents of body expression education.

3. Originality of Research

Concerning prior research, one can find a scattering of practical research related to Dalcroze's *plastique animée* but not research that comparatively examines *plastique animée* in classical ballet and body expression education that was representative near the turn of the 20th century. A comparative examination from the viewpoint of the movement of the body and music, by way of confirming the similarities and differences, can identify the originality of *plastique animée* and new knowledge on body expression techniques around the turn of the 20th century.

4. Research Methodology

The method used by research centres was also utilised in this study to examine major literature regarding Dalcroze, classical ballet's Vaganova method, Rudolf Laban, and Isadora Duncan. Prior research and analysis of audio-visual materials was also conducted.

5. Outline of Research Contents

Chapter 1. Research on the Body Expression Technique of *plastique animée* in Eurhythmics: Focusing on Concept Formation and Transition

In Chapter 1, the major works of Dalcroze were used to examine the details of *plastique animée* in Eurhythmics, the process of its formation, and its transformation.

Dalcroze's works were divided into four periods: the conceptual,

embryonic period; Geneva Music Conservatory teaching period, Hellerau Dalcroze College period, and the Concept Application period. His practical attempts in his educational activities, educational thought, and influence resulting from his exchanges with major figures were considered. The transition in content of *plastique animée* was observed across the periods. Moreover, through analysis of the content of Dalcroze's work *Exercices de Plastique Animée* (1917), actual exercise techniques were observed. Matching the movement of the body to music in *plastique animée* was confirmed as a well-rounded form of education that promotes mental and physical harmony by constructing better coordination of the nervous and muscular systems. Furthermore, it links music with the internal world of the student as he/she listens continuously to music, analyses it, and expresses it with the body.

Chapter 2. Comparison of Dalcroze's *plastique animée* with Classical Ballet : Focusing on How Body Movement Relates to Music

This chapter describes a comparative examination of the Vaganova method—initially presented as an educational system for classical ballet—that, even today, retains a certain degree of approval. Further, the similarities and differences in body expression techniques were observed. Dalcroze was quite doubtful regarding the body expression technique of classical ballet, believing that music was simply fulfilling an accompaniment role.

Specific similarities and differences with the body expression technique of classical ballet were identified using the “elements shared by music and *plastique animée*” defined by Dalcroze. From this examination, it was possible to confirm the consistency of content in Dalcroze's statement regarding the relationship between music and ballet: “The common element between music and contemporary ballet is solely *beat*, and a close similarity is *rhythm*.” In the body expression of classical ballet, importance was always given to the mold of the body, and it was not possible to confirm body expression as an expression of the rich emotions and elements intrinsic to music.

Chapter 3 Research on the Influence of Delsarte Body Expression Observed in Dalcroze's Eurhythmics

In Chapter 3, Francois Delsarte (1811–1871), who developed a “body expression theory” in the field of theatrical arts in the 19th century, was discussed. Delsarte’s theory explained the importance of casting meaning and emotion in each and every movement of the body and incorporated a richer expression of the body. Here, it was confirmed that Delsarte’s theory paved the way for new body exercises and influenced modern dance. An examination regarding how this theory influences Eurhythmics shed light on details of the Delsarte theory. A clear influence was confirmed concerning expressions of something felt by the heart as well as the entire body, along with multiple elements, such as the recognition of space, and educational objectives.

Chapter 4 A Comparison of *plastique animée* in Dalcroze's Eurhythmics and Laban Dance Education : Focusing on How Body Movement Relates to Music

In Chapter 4, the educational philosophy and techniques in dance education attributed to Rudolf Laban (1879–1958), who was active at the same time as Dalcroze, were examined comparatively. Referred to as the “father of modern dance,” Laban was a major figure in the founding period of modern dance. He studied Eurhythmics and actually taught it as an introduction to dance education.

By using “common elements shared by music and *plastique animée*” defined by Dalcroze as indicators, the educational philosophy and technique was confirmed and the similarities and differences between Dalcroze’s and Laban’s methods were examined. Though the educational and philosophical focus of Laban was dance education, common elements included applications to daily life and social education. Moreover, multiple common points were discovered, such as the way of understanding “space.” However, it was also possible to confirm fundamental differences in the way music is understood.

Chapter 5. A Comparison of *plastique animée* in Dalcroze’s Eurhythmics and Duncan Dance Education : Focusing on How Body Movement Relates to Music

In Chapter 5, the educational philosophy and techniques in dance education of Isadora Duncan (1879–1958)—another dancer active at the same time as Dalcroze—were examined comparatively. Referred to as the “mother of modern dance,” Duncan dominated the world of dance at that time. Like the aforementioned Laban, Duncan was a major figure in the founding period of modern dance. She was also greatly influenced not only by classical ballet but also by artists throughout the world of fine art.

The same elements used for the comparison between technique of Dalcroze and Laban were used to study similarities and differences in Dalcroze’s and Duncan’s methods. Like that of Dalcroze, Duncan’s approach to music and movement involved listening to music and expressing with her body. Thus, it was confirmed that Duncan’s technique was fundamentally different from Dalcroze’s. It could be confirmed that for Duncan, music was not simply a “trigger.” It was something based on individual perception described by Duncan as “spiritual inspiration.” With respect to educational philosophy, however, it was possible to confirm the shared objective of human education that cultivated a rich humanity through dance education.

Conclusion *Plastique animée* in Dalcroze’s Eurhythmics : A Comparative Examination of Body Expression Education near the Turn of The 20th Century

Based on the observations discovered through examinations in the previous five chapters, the conclusion summarizes the unique characteristics of Dalcroze’s body expression technique, *plastique animée*, and the similarities and differences with body expression education around the turn of the 20th century.

The distinct characteristic of Dalcroze’s technique was clarified as the aim for mental and physical harmony through body expression that pivoted on listening deeply and understanding music, thereby linking the student’s internal world with

feelings for music. Although fundamental differences with other educational methods were confirmed, interrelationships were revealed, such as common points of educational philosophy observed in body expression education around the turn of the 20th century.

Plastique animée, the central concept of Eurhythmic music education, teaches flexible thoughts and intentions by expanding and deepening individual capabilities through an accumulation of experiences based on movement with music. As a result, people are able to gain the strength to resist passive activities, grow their imaginations, and live life creatively. As they possess their own intentions, people are able to be in tune with their surroundings and maintain a balanced sociability. In this study, it was possible to confirm contents of *plastique animée* with educational significance that is valid today.

Through this research, education in the body expression of *plastique animée* in Eurhythmics promotes individual discovery and acceptance; for a group of individuals, it provides exercises for sociability, a requirement in human society.